

2011(平成23)年度 法学既修者入学試験問題(2月試験)

民法

(120分, 総点150点)

試験開始の指示があるまで開かないこと

注意

1. 問題冊子は、表紙をふくめて4ページで、問題は3問ある。
2. 解答用紙は3枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

第1問

AはBから甲土地を購入したが、将来自分が死亡した時の相続人の負担（相続税等）を少しでも減らしてやりたいと考え、子Cには無断で、買主をCとするBC間の売買を登記原因としてCへの移転登記を申請し、その旨の登記が行われた。半年後にCはその事実を知ったが、登記名義はそのままにしておいた。さらにその3年後に、CはAに無断で、甲土地を自分の土地としてDに売却して引渡しと移転登記が行われた。Dは登記簿の記載からCが所有者であると信じて購入したものとする。

AがDに対して、所有権にもとづいて甲土地の明渡しと所有権移転登記抹消登記の請求をしてきた場合、Dはそれを拒むことができるだろうか。論拠を示して答えなさい。

(50点)

第2問

Xは、平成22年6月1日、Aとの間でA所有の甲土地について、建物所有目的で、賃貸借契約を締結した。

ところが、XがAから甲土地の引渡しを受ける前に、Yが甲土地上に建築資材を置いて甲土地を使用し始めてしまった。

そこで、Xは、Aに対し、Yに甲土地上の建築資材を撤去させるように求めたが、Aは何もしてくれなかった。

Yが甲土地を使用するについて全く権原を有していなかった場合、Xは、Yに対して甲土地上の建築資材を撤去して甲土地を明け渡すことを求めることができるか。

(50点)

第3問

A女には、内縁関係にあったB男との間に子Cがいたが、Aは、結局、Bとは婚姻せず、D男と婚姻し、Dとの間でE、F、Gの3人の子を出産した。その後、Cが成人し、Hと婚姻して、I、J、Kの3人の子が生まれた。

Aは、平成20年に死亡したが、その前にDとCが死亡していた。Aについて単純相続が開始した。Aの遺産は、その居住していた土地、建物だけである。

Kが遺産分割を請求し、その中で、自己の法定相続分は遺産の12分の1であると主張している。

(1) 現行規定によれば、本件において相続人は誰であるか。また、各相続人の法定相続分はどうか。それぞれ根拠条文をあげて答えなさい。(20点)

(2) 民法900条4号ただし書の趣旨を中心にしながら、Kの主張の当否を検討しなさい。(30点)